

令和 2 年度 さいたま市立本太中学校 自己評価書

校長 加藤 明良



1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 真の学力を身に付けさせるために①ICT を活用する能力（効果的に情報収集を的確に発信する力）、②ICT を活用した生徒一人ひとりに応じた学習指導の工夫、③SDGs、STEAMS 教育を念頭にした総合的な学習の時間の実践、の3つを軸とする。
- (2) 学校運営協議会準備委員会を設置運営することで、次年度実施へ向けた具体的な取組及び策を固める。
- (3) 働き方改革を着実に推進し、教職員にとって過ごしやすい職場環境をつくる。

2 評価結果について

- (1) ①③・・・校内研究のテーマ「未来を見据え、よりよく生きる生徒の育成」をキーワードに、組織的かつ計画的に授業改善に取り組んだ。指導主事を招聘し、全教科でタブレットを活用しながらSDGs、STEAMS 教育と関連した研究授業を行うことができた。昨年度の実績をもとに、タブレットをより効果的に活用した授業を行うための指導案を作成し、アクティブラーニング型の授業の推進を図った。生徒アンケート等では、「タブレット型 PC を使うことで理解が深まっているか」の問いに対しては、昨年度より平均で5%が向上した。
- (1) ②・・・全教科においてタブレットを活用した授業の実践に取り組んだ。管理職、校内研修担当、情報教育担当、ICT 支援員を含む本校独自の「GIGA スクール拡大委員会」を発足し、定期的な会合をもつことで、共通認識や授業で活用できた点などを共有した。
- (2)・・・コロナ禍においても2回の学校運営協議会準備委員会を開催できた。令和3年2月に3回目を企画中である。これまでで「今後学校として、地域として実現可能なこと」について熟議を重ねることができた。
- (3)・・・働き方改革では、学校安心メールを活用した毎日の欠席・遅刻連絡体制にくわえ、自由記述の連絡を可能とした。それにより、勤務時間前の電話連絡が昨年度よりも減り対応に追われることが少なくなった。計画年休の取得も管理職を中心に推進し、各々の職員が昨年度よりも多くの年休を取得できた。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・次年度はさらに生徒の深い学びを確立し、地域に開かれた学校を築くために、SDGs や STEAMS 教育の視点での探究的・教科横断的な学習や発展的学習を地域とともに協働することで推進する。
- ・読解力の向上を目指した取組をさらに充実させる。これまでの ICT 活用をさらに応用し、授業内で考察し、情報を整理し発信するなどに加え、伝えたい事柄や考えを明確にして書く力の向上を目指す。
- ・コミュニティスクール実施校として、今年度熟議した内容に優先順位をつけ、実現していく。進めの中で課題を模索し、解決に向けた議論を重ねることで特色ある学校づくりを進めていく。